

総論



FUKUYAMA

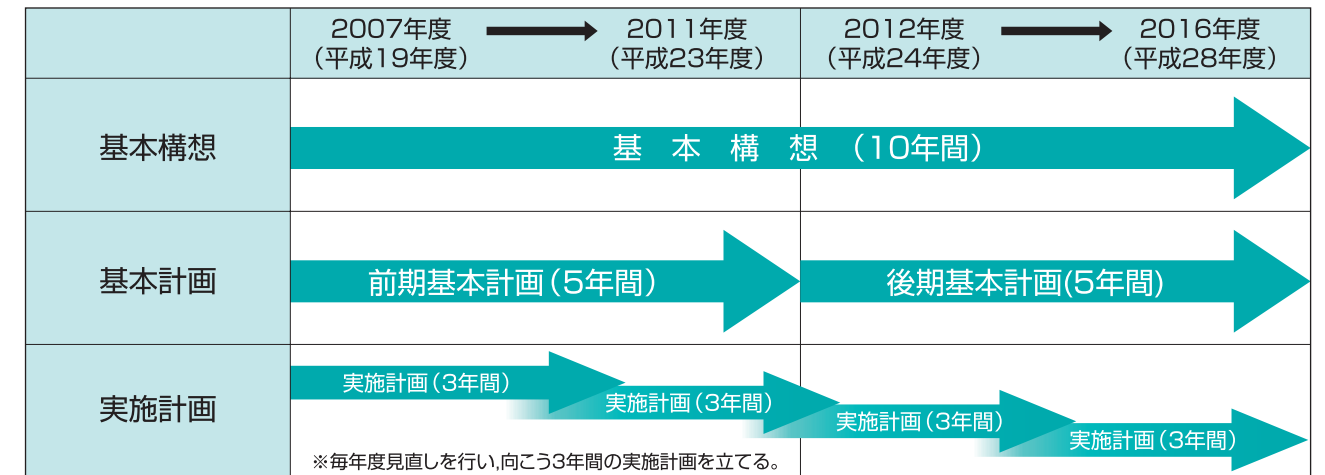
1 前期基本計画の策定について

－ 基本計画とは －

基本計画は、基本構想の実現に向けて部門ごとの具体的な取組を示すものです。

(1) 計画の期間

- 基本計画の計画期間は5年間で、前期基本計画の計画期間は、2007年度（平成19年度）から2011年度（平成23年度）までとしています。



(2) 計画の特徴

- 基本計画は、総論と各論で構成し、できるだけ簡潔で分かりやすい記述に努めています。
- 総論では、基本指標や将来のまちの構造のほか、限られた財源の中で選択と重点化により効率的、効果的な施策を進めていくため、計画期間内での重点施策「「チャレンジふくやま」躍動プラン」を示しています。
- 各論では、各部門ごとに今後必要となる取組の目標を示すとともに、成果を測るための具体的な数値目標を設定しています。また、行政の取組のほか、市民との協働のまちづくりに向け、市民として期待される役割を簡潔に表現しています。
- 後期基本計画においては、市民と行政との協働による前期5か年の成果の評価を踏まえて策定します。

2 前期基本計画の基本指標

基本指標とは

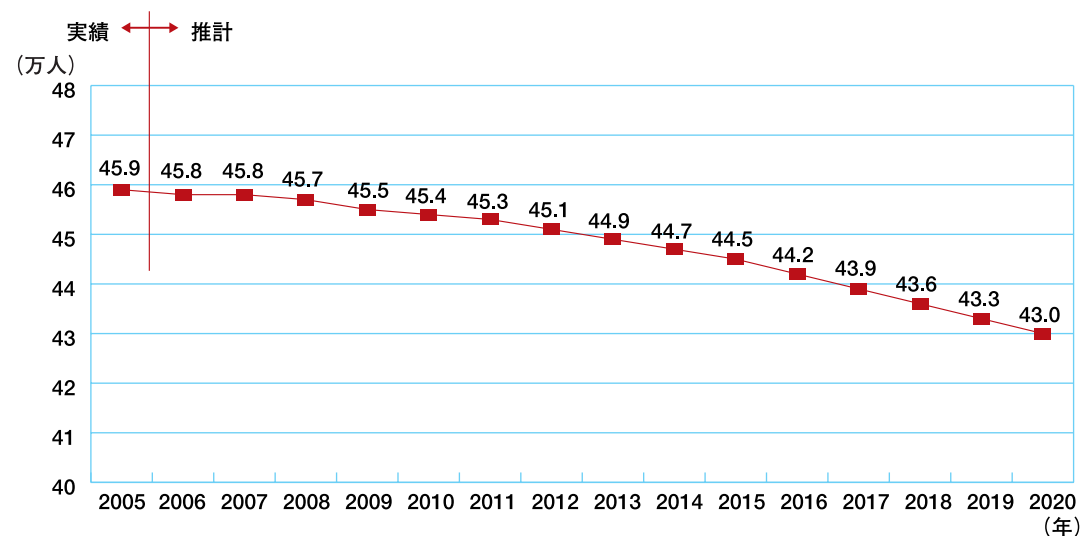
基本指標は、基本計画に基づく施策を進めるに当たって、基本的な指標となるもので、人口、世帯数などについて、国勢調査結果などに基づき推計したものです。

(1) 将来人口

- 本市の人口は、今後、少子高齢化に伴い減少することが予想されます。
- 人口推計では2016年(平成28年)の人口は44.2万人ですが、今後の少子化対策や定住人口の増加を図る施策などに取り組むことにより、目標人口は45.0万人に設定します。

【将来人口の推計】

2005年(平成17年)の人口	45.9万人
2011年(平成23年)の将来人口	45.3万人
2016年(平成28年)の将来人口	44.2万人



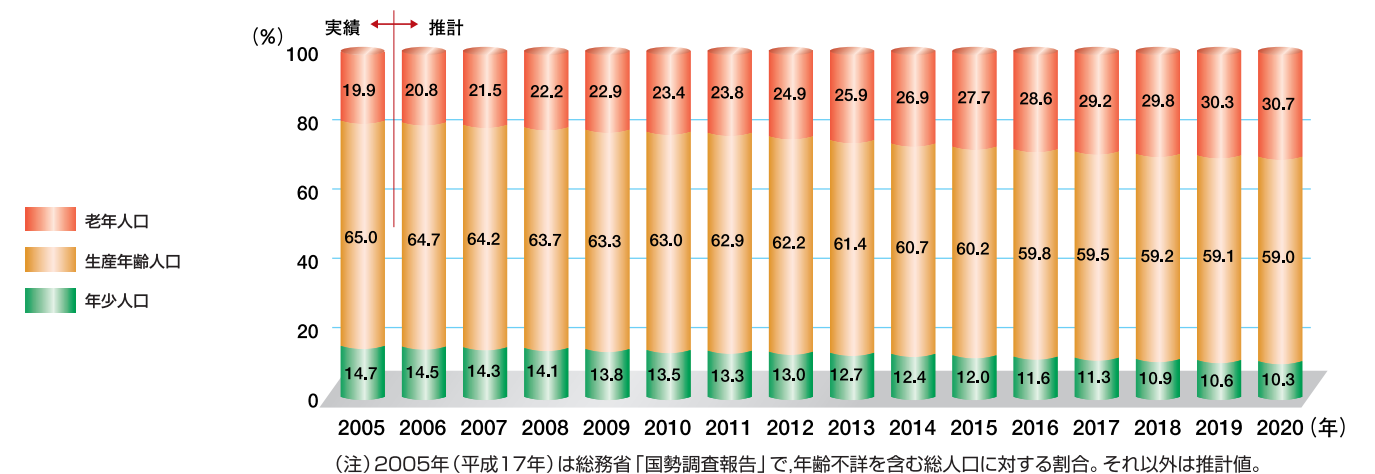
(注) 2005年(平成17年)は総務省「国勢調査報告」で、年齢不詳を含む。それ以外は推計値。

(2) 年齢三区分別人口

- 生産年齢人口と年少人口は減少し、老年人口は増加することが予想されます。

年齢三区分別人口構成比の推計

	2005年(平成17年)		2011年(平成23年)		2016年(平成28年)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
年少人口(0歳~14歳)	67,325	14.7	60,200	13.3	51,500	11.6
生産年齢人口(15歳~64歳)	298,507	65.0	284,800	62.9	264,100	59.8
老年人口(65歳以上)	91,432	19.9	107,600	23.8	126,300	28.6
うち後期高齢者(75歳以上)	42,322	9.2	53,000	11.7	61,200	13.9



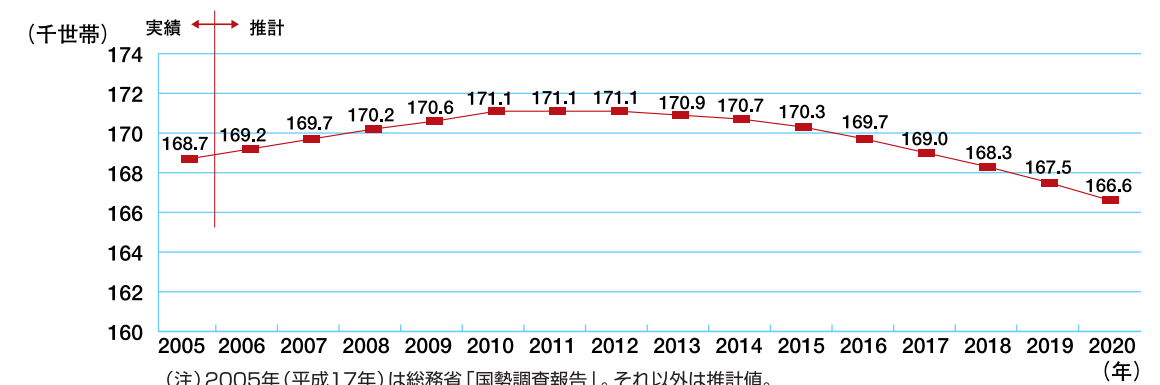
(注) 2005年(平成17年)は総務省「国勢調査報告」で、年齢不詳を含む総人口に対する割合。それ以外は推計値。

(3) 世帯数

- 世帯数は、夫婦のみ世帯や単独世帯などの増加に伴い、2011年(平成23年)には171,100世帯に達しますが、その後減少傾向になることが予想されます。

【世帯数の推計】

2005年(平成17年)	168,728世帯
2011年(平成23年)	171,100世帯
2016年(平成28年)	169,700世帯



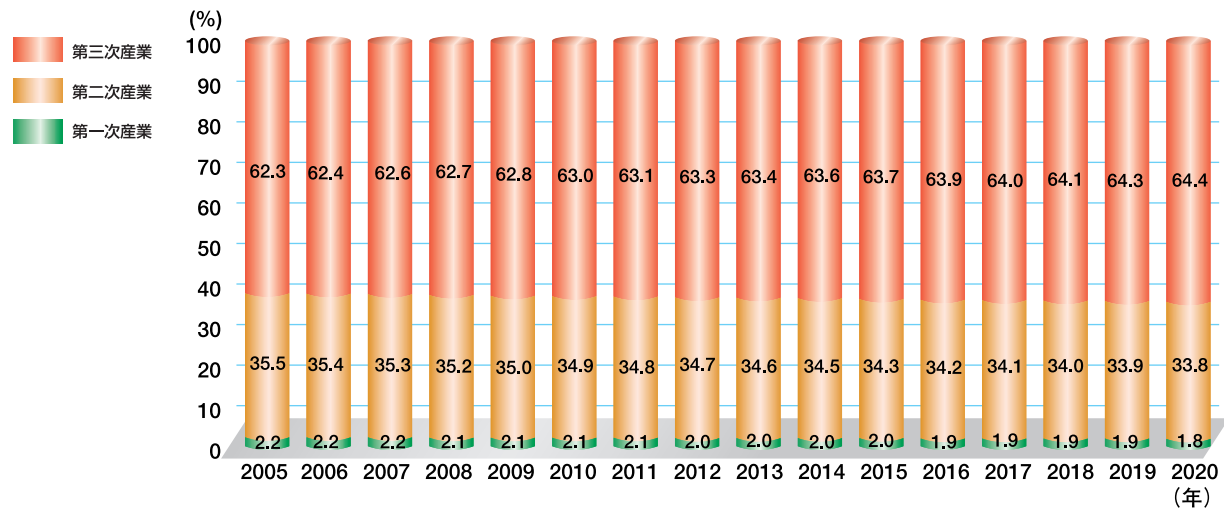
(注) 2005年(平成17年)は総務省「国勢調査報告」。それ以外は推計値。

(4) 産業別就業人口

- 総人口の減少に伴い、就業人口の減少が予想されます。こうした中、第一次産業と第二次産業に従事する人の割合が低下する一方で、第三次産業に従事する人の割合は増加することが予想されます。

産業別就業人口構成比の推計

	2005年 (平成17年)		2011年 (平成23年)		2016年 (平成28年)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
第一次産業	5,000	2.2	4,500	2.1	4,100	1.9
第二次産業	79,400	35.5	76,000	34.8	72,600	34.2
第三次産業	139,400	62.3	137,800	63.1	135,500	63.9



(注) いずれも2000年(平成12年)総務省「国勢調査報告」に基づく推計値。

3 将来のまちの構造

－ 将来のまちの構造とは －

- まちづくりを進めるに当たっては、市街地をどのように形づくっていくかなど、社会情勢などに対応して、市域全体をどのように活用し、どのようなまちの構造にしていこうかという基本方針を設けておく必要があります。
- 本市は合併を重ねることにより広大な市域を有し、山地、川、海岸や平野などの自然環境が地域により異なっています。したがって、市域を自然環境や日常生活圏などから成る地域としての集まりとしてとらえ、それぞれの地域ごとに地域の特性を活かした地域核を形づくっていくというまちづくりを行う必要があります。
- 本市では、市域の自然環境や地域の特性などを考慮して、大きく6つの地域ごとにまとまりのある地域づくりを進めるよう基本方針を定めます。

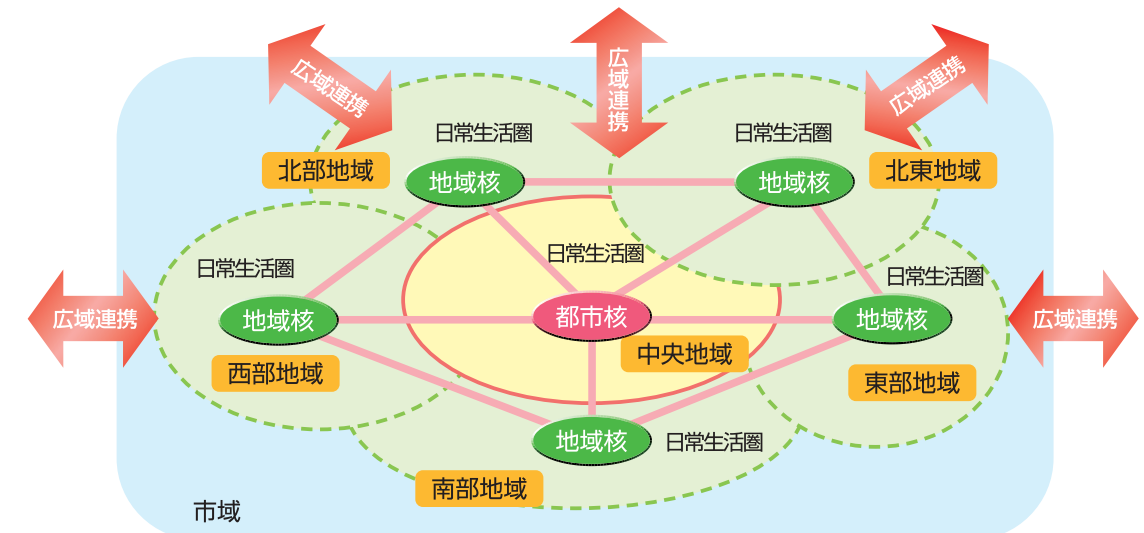
(1) 3つの基本方針

各地域の特性に応じた基本方針を次のとおり定め、本市のまちづくりを進めていきます。

1 福山市全体の均衡ある発展

- 中心部(都市核)とそれを取り巻く地域(地域核)との一体的な発展をめざしたまちづくり
- これまでのまちづくりを活かした、まとまりのある市街地づくり
- 日々の生活に不便さを感じない地域づくり
- 地域間の交流と近隣都市との連携による地域力強化

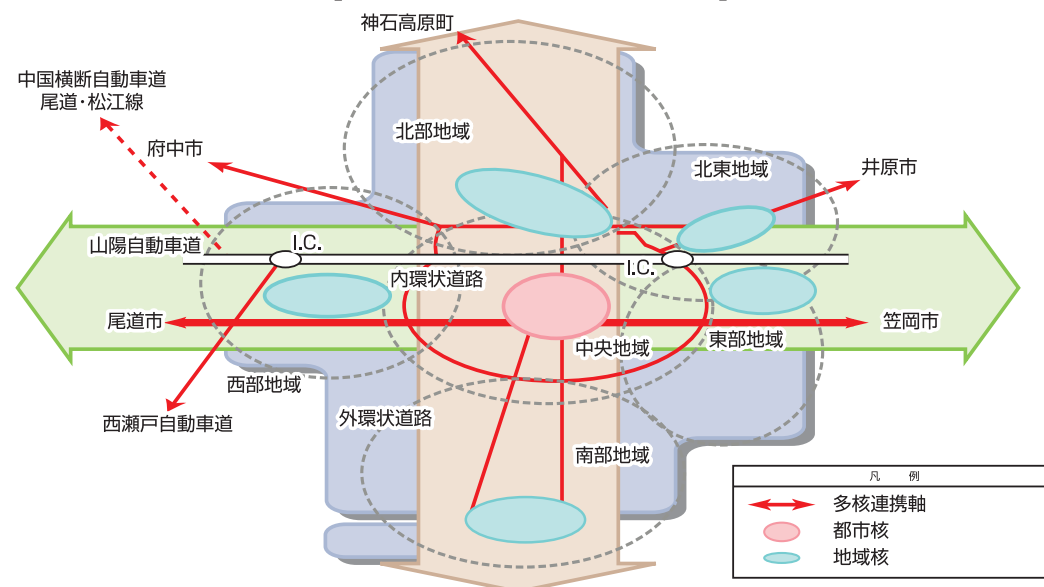
【都市核と地域核の連携のイメージ図】



2 中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力の向上

- 交流人口の増加とにぎわいの創出
- 拠点都市としての機能と魅力を備えたまちづくり
- 中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力の向上

【将来のまちの構造イメージ図】



3 安らぎと潤い空間の創出

- 自然環境の維持・保全
- 都市景観の保全・創出による特色あるまちづくり

(2) 地域別のまちづくりの基本方針

市街地拡散を調整しながら計画的な市街地づくりや農地の保全をするとともに、本市におけるまちづくりの基本方針に基づき、各地域別の特性を活かした方針を次のとおり定めます。

1 中央地域

- 中央地域は、広域交通と市内交通が集結する位置にあり、本市の高い拠点性と求心力を担う地域で、本市における中核拠点としてのまちづくりを進めます。
- JR福山駅周辺地域の土地の有効利用を促進し、交通機能、業務機能、商業機能、文化機能、交流機能、都市型住居などの集積を高めるとともに、都市景観にも配慮しながら、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい風格とにぎわいのある都心づくりを進めていきます。

2 東部地域

- 東部地域は、大規模工場立地による産業拠点や土地区画整理事業に伴って宅地整備が進んできた地域を有する地域で、中央地域における中心市街地を補完する地域として成熟していくことをめざした地域核をつくっていきます。
- 適正な住宅地の配置を誘導するとともに、地域の商業・業務・サービス施設などが充実した計画的な地域づくりを進めていきます。

3 西部地域

- 西部地域には、木材関連産業など伝統的な産業が集積しているほか、港湾、山陽自動車道のインターチェンジもあり、交通機能を活かして産業を集積させていくとともに港湾施設の整備を促進していきます。
- JR松永駅を中心に地域商業、業務拠点や日常生活サービス機能を充実させるとともに港湾機能などを活かした基盤整備を進めていきます。

4 南部地域

- 南部地域は、鞆の浦を中心とした観光資源、海洋性リゾートやスポーツ・レジャーなどレクリエーション資源や丘陵・農地が豊富な地域です。これらの資源を活用した地域振興を行っていくため、関連施設の整備や地域産業を活性化させ、人口の定着と市内外からの交流人口を増加させていきます。
- 地域の商業や日常生活サービス機能の充実をめざした地域づくりを進めるとともに、幹線道路や河川・海岸などの親水空間の整備、漁業基盤の整備などを進めていきます。
- 合併した地域では合併建設計画に基づく事業を推進し、旧市域と一体的に発展するようまちづくりを進めていきます。

5 北部地域

- 北部地域は、恵まれた広大な自然環境や農地を有しており、これらの資源を維持・保全しながら、自然と調和し良好で快適な居住環境を備えた地域づくりを進めていきます。
- 地域商業、交流拠点や日常生活サービス機能が充実した地域づくりを行っていくとともに、産業関連基盤の整備を進めていきます。
- 合併した地域では合併建設計画に基づく事業を推進し、旧市域と一体的に発展するようまちづくりを進めていきます。

6 北東地域

- 北東地域は、恵まれた自然環境や農地を有しているほか、神辺本陣・廉塾などの貴重な歴史・観光資源を有しています。これらの地域資源を維持・保全しながら、計画的に都市基盤の整備を進めていきます。また、旧市域と一体となった地域商業拠点や日常生活サービス機能の充実をめざして地域づくりを進めていきます。
- JR神辺駅周辺においては、計画的な宅地整備などに取り組み、住環境や商業・業務機能などを充実させていきます。
- 合併した地域では合併建設計画に基づく事業を推進し、旧市域と一体的に発展するようまちづくりを進めていきます。

4 “チャレンジふくやま” 躍動プラン

“チャレンジふくやま” 躍動プランとは

- “チャレンジふくやま” 躍動プランは、様々な行政分野において重点的に実施していく主要な施策・事業について、「実施計画全体を実現していくための先導的な役割を持つプラン」として位置付けるものです。
- 前期基本計画においては、基本構想の「まちづくりの基本目標」に基づき、次のとおり5つのプランの柱を設けています。
- この5つの柱の下に10のプランを設け、実施計画の中で具体的な事業を位置付けて重点的に取り組んでいきます。

1 だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち (安心・安全・環境)

(1) だれもが安心・安全なまちプラン

～ 人が大切にされ、市民の命や財産を守るために ～

人権施策基本方針の推進

主な事業 >>> ・人権教育・啓発の推進

防犯対策の強化

主な事業 >>> ・地域安全推進事業

防災・危機管理体制の充実

主な事業 >>> ・総合防災訓練の実施 ・情報通信網の整備充実

(2) 地球環境にやさしいまちプラン

～ 地球にやさしい環境を守るために ～

地球・地域環境の保全と循環型社会の構築

主な事業 >>> ・福山市環境基本計画の策定と推進

(3) 快適に暮らせるまちプラン

～ 快適な生活環境を支え浸水被害から守るために ～

下水道の整備

主な事業 >>> ・下水道施設整備の推進 ・雨水対策の充実

2 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち (保健・福祉・医療)

(4) まちぐるみ子育て応援プラン

～ 安心して子どもを生み、育てられる環境をつくるために ～

子育て支援環境の整備

主な事業

- ・保育所整備事業 ・乳幼児健康支援保育事業
- ・保育所における子育て支援事業の充実
- ・ひとり親家庭の自立支援の推進 ・放課後児童クラブの充実

児童虐待防止対策の充実

主な事業

- ・「虐待防止ネットワーク」活動の充実 ・育児支援家庭訪問事業

(5) みんなで健康いきいきプラン

～ みんなが住み慣れた地域で安心して健康に暮らせるために ～

高齢者保健福祉計画の推進

主な事業

- ・地域包括支援センターの運営 ・介護予防事業の充実
- ・生きがい対策・社会参加の推進

障害者保健福祉総合計画の推進

主な事業

- ・障害福祉サービスの充実

市民病院と救命救急センターの機能強化

主な事業

- ・がん診療連携拠点病院の機能強化 ・救命救急センターの運営

健康ふくやま21の推進

主な事業

- ・健康ふくやま21の中間評価 ・生活習慣病対策

3 多様に学び、文化をはぐくむまち (教育・文化)

(6) 次世代を担う人づくりプラン

～ 福山の将来を担う人材育成のために ～

高等教育機関の充実

主な事業 ▶▶ ・四年制大学の設置

学校教育ビジョンⅡの推進

主な事業 ▶▶ ・キャリア教育推進事業 ・少人数指導推進支援事業
・生徒指導教育相談の充実

家庭と地域の教育力の向上

主な事業 ▶▶ ・異世代交流学習機会の提供

4 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち (活力・交流)

(7) にぎわい・交流創出プラン

～ にぎわいのある中心市街地と交流拠点機能の強化をめざして ～

個性ある備後都市圏の玄関づくり

主な事業 ▶▶ ・中央公園地区整備事業 ・福山駅前広場整備事業
・東桜町地区市街地再開発事業 ・伏見町地区市街地再開発事業

交通体系の整備と物流機能の強化

主な事業 ▶▶ ・福山港箕沖地区国際コンテナターミナル整備事業
・尾道糸崎港機織地区港湾整備事業 ・幹線道路網整備事業
・鞆地区道路港湾整備事業 ・公共交通の維持・確保

(8) 産業の力みなぎるまちプラン

～ 活力あふれる産業振興をめざして ～

企業立地の促進

主な事業 ▶▶ ・企業立地促進制度 ・産業団地整備調査
・産業団地整備事業

産業振興ビジョンの推進

主な事業 ▶▶ ・中心市街地再生 ・ベンチャー・サポート・システム²⁶
・環境関連産業の創出 ・産業基盤整備事業
・地場産業の創出活動支援

農業振興ビジョンの推進

主な事業 ▶▶ ・農業の担い手の確保と育成

就業支援の充実

主な事業 ▶▶ ・若年者就職支援事業
・働く場における男女共同参画の推進(再就職のための支援)
・団塊世代の支援

(9) 「福山らしさ」あふれるまちプラン

～ だれもが住んでみたいまち・訪れてみたいと思うまちをめざして ～

都市ブランドの創出・発信

主な事業 ▶▶ ・鞆の町並み保存 ・ものづくり技術の継承
・ふくやまブランド農水産物推進事業

観光振興ビジョンの推進

主な事業 ▶▶ ・観光情報発信事業 ・魅力ある景観づくり
・観光基盤整備事業

ばらのまちづくりの推進

主な事業 ▶▶ ・ばらのまちづくり推進事業

26 ベンチャー・サポート・システム:ベンチャー企業に対して技術開発から商品化、販路開拓、資金供給、人材育成の各段階において、効果的な支援を行うための産学官民連携による支援体制のこと。

5 市民とともにつくる自立したまち (協働・行革)

(10) みんなが主役のまちプラン

～ 市民とともにつくるまちづくりのために ～

コミュニティ活動の拠点となる施設の整備

主な事業

- ・(仮称)福山市西部市民センターの建設
- ・鞆支所等公共施設整備事業

協働のまちづくりの推進

主な事業

- ・協働のまちづくり推進事業

団塊世代を活かしたまちづくりの推進

主な事業

- ・団塊世代の社会活動の支援
- ・定住及び交流の促進

だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち(安心・安全・環境)

(1) だれもが安心・安全なまちプラン

市民一人ひとりが、お互いの人権を尊重し信頼できる人間関係を築き、それぞれが協力してすべての人にやさしい快適な環境を創出します。

また、自主防犯組織や自主防災組織の育成、支援を進め、警察や消防と連携しながら、総合的な危機管理体制の確立に向けて、犯罪や自然災害、大規模な事故などから市民の命や財産を守るまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
人権を侵害されたと感じたことのある市民の割合	23.9%(2003年)⇒15.0%	P66
刑法犯罪の認知件数	6,560件(2005年)⇒4,570件以下	P72
こども110番の家の数	5,775軒(2006年度)⇒6,350軒	P72
自主防災組織数	72組織(2006年度)⇒81組織	P74

(2) 地球環境にやさしいまちプラン

市民、事業者、行政がそれぞれの役割に応じて環境保全活動を行うとともに、大気や水の監視や工場などへの的確な規制を行うことにより、豊かな自然環境を守ります。

地域、職場、学校などにおけるごみの減量・リサイクル活動の支援などを行い環境にやさしい循環型社会をめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
環境基準適合項目の割合	大気環境 85.1%(2005年度)⇒90.0% 水環境 64.7%(2005年度)⇒75.0%	P98
ごみの年間排出量	176,989t(2004年度)⇒164,000t (年間1%の減量)	P100

(3) 快適に暮せるまちプラン

下水道施設を計画的・効率的に整備するとともに、水洗化率を高めることにより、快適な生活環境を創り、きれいな川をとり戻します。

集中豪雨などによる浸水防止のため雨水対策施設の整備や合流式下水道を改善し、市内中心地域の浸水安全度を高めます。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
公共下水道の処理人口普及率	61.9%(2005年度)⇒68.0%	P90
雨水対策整備率	48.8%(2005年度)⇒52.0%	P90

子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉・医療)

(4) まちぐるみ子育て応援プラン

妊産婦・乳幼児の訪問支援や健康相談・健康診査の充実などの取組により、子どもを安心して生み育てられるまちをめざします。

家庭での子育てを地域全体で支え合う取組、子育てと仕事の両立への支援や保育サービスの充実などの取組により子育て環境の充実したまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
子育てに対する不安や負担を感じる人の割合	就学前児童の保護者 60.8%(2003年度)⇒50.0%以下 小学生児童の保護者 56.1%(2003年度)⇒50.0%以下	P106
子どもを虐待していると思ったことがある人の割合	就学前児童の保護者 12.7%(2003年度)⇒5.0%以下 小学生児童の保護者 9.3%(2003年度)⇒5.0%以下	P108

(5) みんなで健康いきいきプラン

高齢者への介護予防事業や社会参加活動への支援、障害者自立支援法への対応などの取組により、みんなが地域でいきいきと楽しく健康に暮らせるまちをめざします。

救命救急センターや市民病院の機能強化を進め、市民が安心して暮らせるまちをめざします。

健康ふくやま21に基づく施策を進め、みんなが自ら健康づくりを行うまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
介護が必要となる(要支援・要介護)高齢者の割合	23.3%(介護予防を行わなかった場合の2011年度の推計) ⇒ 22.1%	P114
老人大学修了者数(累計)	63,263人(2005年度)⇒79,400人	P110
日中活動系サービスを利用する障害のある人の数	1,500人(2006年度)⇒1,831人	P116
障害のある児童・生徒の個別の教育支援計画の策定	49.7%(2006年度)⇒100%	P118
運動不足と感じている人(成人)の割合	77.7%(2001年度)⇒50.0%以下	P120
朝ごはんを食べない人の割合	小学3年生 14.2%,小学6年生 17.7%, 中学2年生 16.7%,高校2年生 24.1% (2001年度)⇒すべて0%	P122

多様に学び、文化をはぐくむまち(教育・文化)

(6) 次世代を担う人づくりプラン

四年制大学の設置や市民の生涯学習、能力開発の意欲への対応などの取組により地域社会に貢献できる人材を育てます。

確かな学力と豊かな心を育てるとともに、福山の将来を担う人材育成に取り組みます。家庭と地域の教育力を高め、次代を担う青少年の温かい心と豊かな感性をはぐくむまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
基礎基本定着状況調査の正答率	小学校(小5):国語 75.4%,算数 78.4%, 中学校(中2):国語 80.9%,数学 68.8%, 英語 72.5%(2006年度)⇒すべて80.0%以上	P132
不登校の児童・生徒数	606人(2005年度)⇒450人	P132
非行による補導人数	708人(2005年)⇒500人	P134

産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち(活力・交流)

(7) にぎわい・交流創出プラン

中国・四国地方の拠点都市の玄関口として、魅力とにぎわいがあり、歩いて楽しめる中心市街地をめざしたまちづくりを進めます。

地域の特性に合った交通手段を維持・確保するとともに、人やモノが行き交う交流拠点機能を高め、拠点性と求心力を備えたまちづくりを進めます。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
福山駅周辺の通行量(休日)	159,236人(2005年度)⇒183,000人	P160
中心市街地の居住人口	15,199人(2005年度)⇒16,000人	P160
福山市内渋滞損失時間	1,375万人時間/年(2005年) ⇒(2007年度に設定)	P152
福山港コンテナ取扱数	78,181TEU(2005年)⇒100,000TEU	P154

(8) 産業の力みなぎるまちプラン

企業立地を促進するため立地環境の整備を進めるとともに、地元産業の経営基盤整備強化や起業の支援を行い、産業の活力あふれるまちづくりをめざします。

農業の担い手の確保や若年者や団塊世代などの就業支援を充実させ、産業の元気なまち「ふくやま」をめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
公的産業団地の分譲率	87.0%(2006年度)⇒100%	P146
付加価値額	6,689億円(2004年)⇒7,200億円	P148
開業率(全産業)	4.2%(2004年)⇒4.8%	P150
ふくやまブランド農産物出荷量	2,246t(2005年)⇒2,700t	P168
認定農業者の育成	80人(2005年)⇒100人	P168
Uターン就職決定者数	延83人(2001~2005年度) ⇒延110人(2007~2011年度)	P166
勤労者福祉共済事業会員数	3,370人(2006年度)⇒4,600人	P166

(9) 「福山らしさ」あふれるまちプラン

ばらのまち、ものづくりに強いまち、豊かな歴史・文化的資源など他のまちにはない「福山らしさ」を創出し、活かすまちづくりを進めます。

「福山らしさ」を全国に発信するなどの都市ブランド戦略を進め、だれもが知っているまち、訪れてみたいまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
ふくやまブランド農産物出荷量(再掲)	2,246t(2005年)⇒2,700t	P168
地域ブランド商品数	1商品(2006年度)⇒3商品	P172
年間総観光客数	617万人(2005年)⇒660万人	P164
観光情報ホームページ閲覧数 (観光協会)	延36万件(2002~2006年度) ⇒延50万件(2007~2011年度)	P172
ばらの本数	50万本(2006年度)⇒70万本	P172

市民とともにつくる自立したまち(協働・行革)

(10) みんなが主役のまちプラン

コミュニティ活動の場の確保や市民の主体的な活動への支援を進めるとともに、団塊世代がまちづくりへ参加する取組を進めます。

市民と行政が、共通の目的を共有し、それぞれの持つ特性を活かしながら、対等な立場で補完し合い協力し合って、自主・自立のまちづくりに取り組み、だれもが住んでみたいまちをめざします。

指標の例示	現状 ⇒ 目標(2011年度又は2011年)	参照ページ (各論)
自治会(町内会)加入率	72.3%(2005年度)⇒75.0%	P178

5 今後10年間で取り組む主要事業

— 今後10年間で取り組む主要事業とは —

- かつてない人口減少社会の到来や国の財政支援の縮小など、今後地方を取り巻く財政環境は、厳しさを増すことが予測されます。このため、これからの社会資本の整備に当たっては、既存の施設の有効活用を図りながら、より一層の事業の選択と、財源の重点化による基盤整備を行うことが必要です。また、少子高齢時代に対応した子育て支援、高齢者福祉の充実、教育など次代を担う人づくり、福山ブランドの全国への発信などソフト施策を重視した取組がこれまで以上に求められます。
- 今後は、都市基盤整備などハード施策においては、事業の選択と財源の重点化を図るとともに、市民ニーズに的確に対応したソフト施策に取り組む中で、中国・四国地方の拠点性と求心力を備えた活力と魅力あるまちづくりを進めていきます。
- ここでは、市制施行100周年に向けて前期基本計画及び後期基本計画で対応していく事業のうち、おおむね事業費3億円以上の事業で、本市の骨格となる都市基盤の整備事業に係る主要なものを、次のとおり掲げています。なお、合併建設計画に掲げる事業については、合併建設計画に基づき着実に進めていきます。
- 事業の具体化に当たっては、実施計画においてソフト事業などとのバランスも考慮しながら財源調整を行い、また必要に応じて見直しも行った上で決定していきます。

今後10年間で取り組む主要事業

(注) おおむね事業費3億円以上の事業(合併建設計画に掲げる事業は合併建設計画による。)

1 だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち(安心・安全・環境)

- ・し尿処理施設整備事業
- ・合流式下水道改善事業
- ・道路改良事業(幕山台大門線)
- ・消防施設等整備事業
- ・市営住宅の再整備事業
- ・老朽水道管の更新整備事業

2 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉・医療)

- ・保育所整備事業

3 多様に学び、文化をはぐくむまち(教育・文化)

- ・大学整備事業
- ・福山市竹ヶ端運動公園等社会体育施設整備事業
- ・小・中学校校舎改修等事業
- ・公民館等社会教育施設整備事業
- ・小・中学校屋内運動場増改築事業
- ・文化財保存整備事業
- ・小・中学校屋内運動場耐震補強改修事業

4 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち(活力・交流)

- ・福山駅前広場整備事業
- ・産業団地整備事業
- ・(仮称)中央図書館建設事業
- ・幹線道路網整備事業
- ・東桜町地区市街地再開発事業
- ・鞆地区道路港湾整備事業
- ・伏見町地区市街地再開発事業
- ・津之郷奈良津線都市計画道路事業(山手橋架替)
- ・福山港箕沖地区国際コンテナターミナル整備事業
- ・今津高西線都市計画道路事業
- ・尾道糸崎港機織地区港湾整備事業
- ・鷹取本庄線都市計画道路事業

5 市民とともにつくる自立したまち(協働・行革)

- ・(仮称)福山市西部市民センター建設事業
- ・鞆支所等公共施設整備事業
- ・中央公民館跡地整備事業